

CASBEE® - 建築(新築) 2021年SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Kurita Innovation Hub / Technology	階数	地上5F
建設地	東京都昭島市	構造	S造
用途地域	工業地域、準工業地域、準防火地域	平均居住人員	320 人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,570 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2022年3月 竣工	評価の実施日	2024年3月1日
敷地面積	21,845 m ²	作成者	吉田健史
建築面積	8,132 m ²	確認日	2024年5月10日
延床面積	27,497 m ²	確認者	吉田健史



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ☆

個別計算

- ①参照値: 100%
- ②建築物の取組み: 77%
- ③上記+②以外の: 77%
- ④上記+: 21%

このグラフは、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量を評価者自身の計算(個別計算)により算出した結果を示しています。LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート(個別計算)」を参照されたい

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.5
4(教育)	2.7
5(ジェンダー)	2.8
6(水・衛生)	2.8
7(エネルギー)	1.8
8(経済・雇用)	2.6
9(イノベーション)	2.3
11(都市)	2.4
12(生産・消費)	2.1
13(気候変動)	2.5
15(陸上資源)	2.4
17(実施手段)	2.4

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>各階研究室に付帯したオフィス環境になるため、採用出来る環境配慮項目に制限があるなか、採用可能な項目については積極的に採用した。</p> <p>特にQ1の室内環境に注力し、快適性と省エネを両立させる計画としている。</p> <p>電力利用については、太陽光発電設備が置けない地域的な制限がある中、100%グリーン電力を購入し、CO₂排出量を削減している。</p>	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水処理プラント、純水製造プラント、雨水浸透貯留槽の設置等によりLEEDZeroWaterのゼロウォータービルディング(ZWB)を実現する計画としており、防災時の長期的な水の確保も可能となっている。 	
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室の高い作業環境の実現を目指し室温を夏期冬期共に24°C設定での運用を可能とし、1人当たりの必要換気量を35m³/h確保した。 ・Low-eガラスの採用により熱負荷低減する他、サッシは断熱性能の高いものを採用した。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフィス空間はエリアごとに内装コンセプトを設定し、利用者が働きたいと思う環境で自由に働けるよう、選択肢を設けた内装計画とした。 ・構造的に耐震性の高い計画とし、設備は原則耐震クラスを確保した。 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑化指針に適合した計画とした。 ・敷地内の生物資源や地域特性を踏まえた緑化計画とした上で、高い緑化率を実現している。 ・敷地内温熱環境への配慮として、風を導き、歩行者空間を確保した。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外装はLow-eガラスを採用し高い断熱・遮蔽性能を達成している。 ・エネルギー利用量については、高効率熱源設備を採用した。 ・運用段階でのエネルギー使用量分析については、 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水資源保護への対策として、節水器具や擬音装置等を採用した。 ・排水処理設備プラントを活用し、排水を最大80%再利用して負荷を軽減している。 ・冷媒はODP=0のR32を採用した。 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地内の雨水を60mm浸透させる浸透槽を配置した。 ・排水処理設備プラントを活用し、排水を最大80%再利用して下水道への負荷を軽減している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
Kurita Innovation Hub / Technology Innovation Center_N

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									4.0
Q1 室内環境					0.40		-		3.8
1 音環境				3.1	0.15	-	-		3.1
1.1 室内騒音レベル		特になし		4.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				3.4	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		T-3性能を確保した外装サッシ		5.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能		特になし		1.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-		
1.3 吸音		-		1.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				4.6	0.35	-	-		4.6
2.1 室温制御				4.3	0.50	-	-		
1 室温		空調機コイル能力に余力を持たせ、24℃の達成可能		5.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		Low-eガラス+ブラインド+庇		4.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		方位ごとの空調ゾーニングとVAVIによるゾーニング等		4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		夏期除湿再熱あり、冬期は45%以上の加湿能力を確保		5.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		床吹空調機、天井放射パネル、除湿型放射パネル採用		5.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.4	0.25	-	-		3.4
3.1 昼光利用				3.4	0.30	-	-		
1 昼光率		足元から天井レベルまでの全面ガラスを使用		3.0	0.60	-	-		
2 方位別開口		-		-	-	-	-		
3 昼光利用設備		トップライト(4階、5階の2フロアを対象)		4.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-		
1 昼光制御		ブラインドと庇でグレアを制御		4.0	1.00	-	-		
3.3 照度		照度は300Lxをベースとしている。		3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		平均して概ね1スパンごとに制御可能な計画とした。		3.0	0.25	-	-		
4 空気環境				3.4	0.25	-	-		3.4
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		特になし		3.0	1.00	-	-		
4.2 換気				4.3	0.30	-	-		
1 換気量		35m ³ /h以上を確保		5.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		FIXの外装ガラスで自然換気口は無し		3.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		外気ガラリ設置面は汚染源がなく、排気口は屋上で排気		5.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		ビル管法を参考とした測定を実施		3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		指定喫煙場所以外での喫煙の禁止、喫煙室の機械的な排気制御		3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		4.0
1 機能性				4.1	0.40	-	-		4.1
1.1 機能性・使いやすさ				3.5	0.57	-	-		
1 広さ・収納性		1人当たりの執務スペース12m ² 以上を確保できるゆとりある執務空間		5.0	0.50	-	-		
2 高度情報通信設備対応		50VA/m ² を確保する計画とした。		2.0	0.50	-	-		
3 バリアフリー計画		特になし		-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.43	-	-		
1 広さ感・景観		平均天井高さ2.9m以上、屋外の景観が楽しめるオフィスエリアの配置		5.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース:788.92m ² /オフィスエリア:4,779.91m ² =0.165		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画		各エリアにテーマを与え、従業員が気分に合わせて作業できる空間		5.0	0.33	1.0	-		
1.3 維持管理				-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		評価対象外		-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保		評価対象外		-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.5	0.30	-	-		3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		基準法レベル		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		特になし		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.7	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		特になし		-	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		特になし		3.0	0.25	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		持続可能な森林から産出された木材の床フローリングを使用		3.0	0.13	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		高耐食メッキ鋼板(スーパーダイマ)を採用		5.0	0.13	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管はB、排水はB、空調配管はD		5.0	0.25	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		最も用いられている空冷HPモジュールチラーが15年		3.0	0.25	-	-		
2.4 信頼性				4.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		設備耐震クラスS、熱源を電気とガスで分散化、サーバー室空調の再利用水(RO膜処理水を用いた中水)の利用、飲用利用可能な単		5.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		非常用発電機の設置、重要系の二重化、浸水対策		5.0	0.20	-	-		
3 電気設備		各設備耐震クラスSとしている。		4.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		サーバー室の浸水による対策(EPS内にRC立ち上がり)		5.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			4.3	0.30	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高5.0m以上確保		5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	空間にゆとりを持たせた計画とした		5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり	床用4,900N/m ² 、架構用割増率が床用に比べ小さいのでレベル4		4.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			4.2	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性	天井放射パネルの間にメンテナンススペースを確保		4.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	天井放射パネルの間にメンテナンススペースを確保		5.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	天井放射パネルの間にメンテナンススペースを確保		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	天井放射パネルの間にメンテナンススペースを確保		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	建物機能を維持できる熱源設備台数で計画し、メンテナンスルート		5.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	将来設置対応のスペースを確保		4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出	土地の特性、周辺の環境を踏まえ積極的な緑化整備		4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	建物高さ、壁面後退、沿道緑地、良好な景観、地域資源をイメージし		5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域文化の反映、横断歩道橋を敷地内整備、中間領域形成、防犯		4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制	Low-eガラスの採用		4.8	0.20	-	-	4.8
2 自然エネルギー利用	トップライトを採用		4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化	高効率熱源設備の採用		3.5	0.50	-	-	3.5
4 効率的運用			5.0	0.20	-	-	5.0
集合住宅以外の評価			5.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	BEMSモニタリングにより、各エリアごとに使用量を把握可能		5.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	コミショニング業務を第三者に依頼し、実施中		5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.7	0.20	-	-	3.7
1.1 節水	節水型大便器の採用、擬音装置の採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.6	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	特になし		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	実験排水を排水処理の上、RO膜処理で再生水として再利用		5.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減	特記無し		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	特記無し		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	特記無し		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特になし		1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	フローリング床材(樹種:ホワイトオーク 原産地:インドネシア)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	分別可能な躯体+軽鉄+仕上材と再利用ユニットのOAフロア		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.3	0.20	-	-	2.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.0	0.70	-	-	
1 消火剤	対象設備無し		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	-		1.0	0.50	-	-	
3 冷媒	主要熱源の冷媒にR32を採用		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	熱源設備の効率化による運用時のCO2排出量の削減		3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止	対象機器無し		-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		2.0	0.67	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.33	-	-	
1 雨水排水負荷低減	降雨量60mmを考慮した雨水浸透貯留槽を配置している		4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	排水処理プラントで敷地外への排水量を約80%低減させる。		4.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	来客用駐車スペース、屋外作業ヤード、車両出入口と出口を分離		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	廃棄物置場、分別キャビネット、廃棄物減量・再利用に関する計画書		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	規制基準以下とした。		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	対象設備なし		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	風騒音風洞実験により風騒音発音性状の確認を行った。		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	
3 日照障害の抑制	日影規定を満たした計画としている		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	省エネ性の高い光源を使用		4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	開口率60%の外壁ルーバーによりガラス面の反射光を抑制		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0	-	○	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	11.0	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	3.0	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	4.0	4.0	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	12.0	-	2.0	2.0	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	5.0	-	2.0	1.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	4.0	-	-	1.0	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0	-	-	-	-	2.0	-	2.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	4.0	-	-	-	-	-	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.3 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム 2.9 屋根 2.8 外壁 1.8 床 1.4 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 1.8%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 14.9㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 50.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 3.26 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 16.5% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 25 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 10 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 15 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 5.5 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 6.6%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 4900 N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 34% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 20% 水平投影面積率 7% 地表面対策面積率 22% 舗装面積率 42%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.82 断熱等性能等級 等級2 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 0.75 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 100.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1430
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 8
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 #DIV/0! 隣棟間隔指標Rw 0.40 地表面対策面積率 31.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 16.0% 見付面積Sb m ² 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 0 m 基準高さHb 0 m 緑地 2,808㎡ 水面 m ² 保水性対策面 300㎡ 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 300㎡